



岡山県倉敷市真備町の浸水被災地で活動する第4次泥かき隊のメンバー

壁の中はまだ乾いてない

被災家屋の片付け 真備町で高・大生ら40人

西日本豪雨災害
第4次泥かき隊

桐生災害支援ボランティアセンターから、6班に分かれて被災した住宅に赴き、壁や床板を引きはがし、運搬し、分別するなどの作業に従事した。

リーダーの青木さんによると、被災から2カ月以上たつものの、壁の中の断熱材などは乾燥しておらず、搬送は重労働に。それでも「高校生たちは一生懸命に動いていました。ボランティアも見学し、今

回の見聞を将来に役立ててほしい」とも。当日は各所から約1000人のボランティアが真備町を訪れ、片付けを支援した。「1カ月前に訪れたときは山積みされていたごみがなくなるなど、復興は徐々に進んでいる」と青木さん。ただ、住民が帰宅できるまでには環境整備が

進んでおらず、復興にはまだしばらく時間がかかりそうだ。同センターでは今後も状況を見ながら、ボランティアを募る予定だ。

今回は災害ボランティアネットワーク桐生代表の青木講一さんをリーダーに、桐生高校21人、桐生第一高校5人の高校生や、群馬大学の学生ら10代、20代の若手が数多く参加。桐生市ボランティア協議会のスタッフ4人を加えた約40人はボラ

如三平

世福人青木義民

祭共々各職